

全国 保健所長会 だより

自己紹介

私は平成29年に近畿大学医学部を卒業後、佐渡総合病院で初期臨床研修を行いました。

日本では医療・介護資源が都市部に集中し、地方では深刻な資源不足が続いています。新潟県は医師偏在指標で全国45位と、医師不足が顕著な地域であり、特に佐渡市は高齢化率が40%を超える超高齢地域です。佐渡での研修を通じて、地域医療の課題と可能性を感じ、持続可能な医療・介護提供体制の構築を目指して、31年に新潟県の公衆衛生医師となりました。

公衆衛生への関心の高まり

新潟県では令和3年より、公衆

公衆衛生若手医師・ 医学生サマーセミナー (PHSS)2025運営報告

新潟県福祉保健部／佐渡保健所 松澤 知

衛生医師の業務を体験できるインターンシップを実施しており、これまでに全国から200名を超える医学生等が参加しています。

また、昨年のPHSS2024では、定員36名に対し57名の申込みがありました。これは、公衆衛生という分野への関心が高まっていることを示していると感じています。

運営委員長への指名

PHSSは、参加者満足度が非常に高く、令和7(2025)年で第14回を迎える歴史あるセミナーです。毎年進化を続けている点も大きな魅力であり、これまでの発展に尽力された歴代の運営委員長や関係者の皆さまに、深く敬意を表します。

開催概要

令和7年8月23日(土)・24日

(日)の2日間にわたり、PHSS2025を開催しました。前年の参加者数42名から定員を60名に拡充し、会場も東京の都市センターホテルから、よりアクセス性と収容性に優れたビジョンセンター東京八重洲へと変更。快適な環境の下、充実したセミナーを実施することができました。

本セミナーの目的は、公衆衛生に関心を寄せるファン(医学生・医師・若手公衆衛生医師)を対象に、PHSSという場を通じてリクルートおよびリテンションを図ることです。テーマには「各々の社会学・公衆衛生の実践」を掲げ、参加者がそれぞれの立場から公衆衛生活動を再認識し、今後の実践に活かす契機となることを目指しました。

プログラムの内容

PHSS2025のプログラムは開催目的およびテーマに基づき、4つのメイン企画と複数のサブ企画で構成しました。

まず、メイン企画の1つ目では、大阪府岸和田保健所の宮園将哉先生に、「公衆衛生医師のキャリアと

た。

3つ目のメイン企画では、「若手パワー! トーク」若手公衆衛生医師の日常」と題し、東京都健康安全研究センターの菊地省大先生、福島県相双保健所の安達優真先生、北海道岩見沢保健所の田口将人先生、名古屋市中保健センターの宇野春日先生の4名によるトークセッションを実施しました。ラジオ番組風の形式で、若手公衆衛生医師の日常やリアルな声をお届けしました。

4つ目のメイン企画では、「(一社)ケアと暮らしの編集社/公立八鹿病院の守本陽一先生に、「NPO/行政/臨床の3方向から取り組む公衆衛生活動」と題してご講演いただきました。

社会的処方

また、サブ企画としては、PHSS2024でも好評だった「名刺交換会」を今回も実施し、参加者同士やス



PHSS2025の集合写真

タッフとの積極的な交流を促進しました。さらに、PHSS2025から新たに導入した「ネクストイベント紹介」では、今後の事業班イベントなどを紹介し、公衆衛生への関心と参加意欲をいっそう高める機会を提供しました。

振り返り

PHSS2025は、PHSSの位置付けや目的を改めて明確にし、定員を60名へと大幅に拡充、さらに会場も変更するなど、挑戦的な試みを行った回となりました。結果として、参加者アンケートでは満足度9.0点(10点満点中)を記

最後に

PHSS2025の開催にあたり、ご尽力いただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。PHSS2025を通じて、多くの方々の方々の公衆衛生への関心がいっそう高まっていることを実感しました。近い将来、「直美」や「直産」と同じように、ファーストキャリアとして公衆衛生の道を選ぶ医師が「直公」と呼ばれる日が来るかもしれません。

図 PHSS2025のフライヤー

